

# 連句辞典

東明雅・杉内徒司・大畑健治編

連句の実作・鑑賞・研究に  
必須の知識をすべて網羅！  
初心者から研究者まで使え  
る本邦初の連句辞典

本書は、用語篇、人名篇から成る。用語篇は、現在使われている用語を中心に三二四語を選び、意味・用法の解説をし、「参考」欄の引用文は中・近世の諸資料から、用語がどのように記されているかを抄録。人名篇は、近代以降に活用した連句人、俳人五十四人を選び、項目末尾に代表的な連句作品を収録した。また、連句入門の手引き、連句概説、連句略史を付した。近代連句の状況を知る上で貴重なものである。

## 収録項目例

〈用語篇〉 挙句 会釈 一座一句 有心 打越  
思いなし 表八句 懐紙 歌仙 軽み 切字  
景気 五句目 差合 去 式目 四春八木  
〈人名篇〉 天野雨山 伊藤松宇 上田聴秋  
鵜沢四丁 小林見外 下平可都三 関為山  
高橋玄一郎 高浜虚子 中村俊定 野村牛耳

水原秋桜子編 二三〇〇円  
俳句鑑賞辞典

貞徳・宗因から現在活躍中の俳人まで二七〇人の古典的かつ伝統的な名句一〇〇〇を収め、豊かな実作の経験を生かし句作にも役立つ

水原秋桜子編 二八〇〇円  
現代俳句鑑賞辞典

結社や傾向にとらわれず現代の代表的な俳人五〇五人の代表作一四六八句を収め、公平に客観的に鑑賞した。俳句鑑賞辞典の重複なし

大後美保編 二八〇〇円  
季語辞典

日本の季節にまつわる言葉やスモッグ・不快指数などを収録し、春夏秋冬の四季に分類した。気象学者の立場から厳密に季節を分類

中村俊定監修 四五〇〇円  
難解季語辞典

古典俳句に使われる季語は今日では意味や表記が難解で正しい解釈や鑑賞ができない。本書はそれらの季語二千語を収め、解説を施す

国語学大辞典 B5 一九〇〇円

国語慣用句大辞典 A5 八〇〇円

国語慣用句辞典 B6 三〇〇円

国語史辞典 B6 三〇〇円

日本語源辞典 B6 一八〇〇円

京都語辞典 井之口・堀井編 B6 一八〇〇円

擬音語擬態語辞典 B6 三〇〇円

隠語辞典 B6 三〇〇円

近世上方語辞典 A5 一〇〇〇円

花柳風俗語辞典 B6 二〇〇円

新注新語俗語辞典 B6 一〇〇〇円

難訓辞典 B6 三〇〇円

名乗辞典 B6 一〇〇〇円

名数数詞辞典 B6 四〇〇円

あいさつ語辞典 B6 二〇〇円

新版 ことば遊び辞典 B6 一八〇〇円

類語辞典 B6 一八〇〇円

類義語辞典 B6 三〇〇円

表現類語辞典 B6 四〇〇円

新版 文章表現辞典 B6 二〇〇円

# 季刊 連句 第39号



ぬらりひょん (南柏雑記 37) ..... 1  
 英語と日本語での連句体験 ..... 矢崎 藍 ... 2  
 — AIRでの半歌仙「アンにささげるビーバーの巻」 —

第十二回 俳諧芭蕉忌 ..... 6  
 正式俳諧興行 協起り二十韻 冬籠り 捌・文 豊田好敏  
 二十韻八巻 捌・文 東 明雅 金久保淑子 蒲原志げ子 雑賀 遊  
 八角澄子 百武冬乃 山口みづゑ 山崎一恵

「灰汁桶の」の巻 鑑賞 (I) ..... 東 明雅 ... 16  
 「馬追」付勝練習二十韻 ..... 東 明雅 ... 20

新庄市第四回全国連句大会 ..... 文・上月淳子 ... 22  
 作品 三巻 捌 豊田好敏 内田麻子 中島啓世

芦丈翁俳諧聞書 (VI) ..... 24  
 百韻 膝送り 醉芙蓉 ..... 花の会 ... 26  
 二十韻 四巻 捌 藤井草舎 瀧川雅代 鈴木美奈子 ... 28  
 東 明雅 ..... 19  
 新刊紹介 ..... 27  
 雁帛往来 ..... 29

ぬらりひょん  
 南柏雑記 37  
 雅

「あるものは付く、ないものは付かぬ」これは先師芦丈翁の遺訓である。とすれば、常識では此の世に存在せぬと思われる、妖怪・魑魅魍魎の類いを付けるのは、教えに背くことになるのか。

A しがない暮らし屋台引き引き  
 お母さんあれは人魚が泣くのです  
 B 胸元に袖を合はせる秋袷  
 眉ぬれぬれと蛇身隠して  
 などに見られる人魚の句、蛇女の句はあってはならぬ句であるのか。私はそうは思わない。人魚の話、そして蛇女の話、それは幼い時から、いろいろ聞かされて既に私どもの頭の中にしみこんでいる。即ち、頭の中には存在するのである。たとえば、同じ妖怪の中でも、歳時記に登載され公認されている雪女(晩冬)あるいは河童(晩夏)との差はいかがであるろう。雪女や河童が詠んでよければ、人魚や蛇女が出せぬという筈はない。問題はその出し方にあると言ってよい。  
 C 潮騒の浜辺を照らす寒の月  
 白絹かぶり雪女めく

シズ  
 明雅

青き瞳の野性の恋は奔放に  
 D 裸木を抜けて佇む雪女郎  
 しばれる闇の熱きくちづけ  
 のつべらぼう・ろくろくくちび・猫又・ざしきわらし・やまんば・うぶめ・一つ目小僧・つちのこ・天狗・海坊主・屋幽霊・背後霊など、私が用いた妖怪は多いけれども、それらは珍らしいことに価値があり、度々出すとまたかと言つて、捌き手から採用されないことが多い。  
 その点、次の句はいかがであるろうか。  
 E ねずみもち黒き実垂れて御師の家  
 ぬらりひょん出る蕪村の宵  
 愁ひつつおもきおあどの抱きごころ  
 ここに出る「ぬらりひょん」については、私も正確な知識はなかった。最近出版された水木しげる氏の「妖怪画談」(岩波新書)を見ると、次のような説明がある。「夕方、人々がせわしくしているときに、どこからともなくやって来ては、勝手に家の中に入りこむ、そして座敷でお茶など飲んだりする。商人のような恰好をしてとにかくぬらりくらりとした妖怪らしい。  
 お陰でよく分かったが、それにしても、この「ぬらりひょん」の句を取り上げて下さった捌きの下坂元子さんに感謝するとともに、この句から、次の奇想天外なおもしろい恋の句を作られた秋元正江さんに敬意を表するものである。

秋景  
 孝子  
 隆秀  
 明雅  
 遊  
 正江

# 英語と日本語での連句体験

— AIRでの半歌仙「アンにささげるビーバーの巻」 —

矢崎 藍

国際連句協会(AIR・近藤クリス会長)の北米連句ツアーにこの夏参加しました。  
カーメルからサンフランシスコ、サンタフェ、ミルウォーキー、ニューヨークと一ヶ月もの長旅。英会話が苦手な私ですがリーダーの近藤蕉肝・クリス夫妻の通訳により、連句のイトコをたくさん作ることができました。

とはいえ現実には英語圏の中でどう連句が進行するのか、月なかばのミルウォーキーでクリスさんに「アイ、リーダーよ」といわれ、初めて捌をした巻をご紹介しようと思います。

\*恥をかいて三句の転じ説明  
ミルウォーキーでの連句の会場はウッドランドパトーン。芸術文化関係の専門的な本を中心に置く本屋さんですが、奥に集会場があります。経営者のカール・アン夫妻の活動により地域文化を育てる根拠地なのです。

その日も金髪を三つ編みのおさげにしたアンさんが、エプロン姿でお茶の用意や机運びの指示をして忙しく働いていました。二つの連句席の用意ができるまで姿が消えます。どここの目的地でもこういう方々にお世話になる私たちで

す。アンさんは今回AIRの全員にTシャツのプレゼントもしています。その日それを着てきた私の胸には、アンさんの筆によるビーバーくんが上着を着て自転車漕いでいます。楽しいでしょう。それで発句。

ビーバーも自転車飛行秋うらら 藍  
太い短冊に横書きにします。クリスさんが下に英訳を書き、読みあげ、私が胸の絵を指し、たどたどしい説明をして一座開始です。

あ、でもこの日のメンバーが自己紹介しなくては何。つぎにクリスさんが、連句は三句の転じが必要なこと、素材をくりかえさないようにと、式目の説明もしておきます。

「さて、脇だけど秋ね」とクリスさんが私に念おし。「何に気を付ける?」「秋の季語をいれる。発句にぴったり付けること」

それしかいわなかったんです。すぐに五枚も出た句をクリスさんの解説を聞き、辞書もひいて読み、次の句をもらい日本語訳しました。

2 the swallows are beginning / their distant migration (燕はるかに帰りはじめる) ポブ

のです。

4 (ガレッジで子等劇の練習)

ダニー

5 (満開のビーチパラソル湖の岸)

ジーン

6 (蟬がかき消すチェーンソーの音)

クリス

夏二句をいれてここまで表六句です。

あ、訳にカタカナが多いのはごかんべん。

それにしても、自(myself)他(others)場(place)まで言っているのですが、抵抗はありません。どうも彼らはいま、付け句をしつつ三句の転じをする”という全く新しい文学形式を習おうとしているのです。ダニーさんなどオハイオから泊りがけでこの連日の連句セッションに参加しているの聞きました。方法論や知識を、少しでも覚えて身に付けたいというのは当然なのです。

\*ハイク・レンクの英語での定型  
さて裏にはいつて恋もいいですよという気分がほぐれます。

1 (噂の彼大学やめて職に就き)

ダニー

2 (背なのファスナーもつれもどかし)

希久

秋田希久さんは大阪の作詞家さん。連句はこの旅で始めてだそうですが、さすがに色っぽく具体的な恋句です。クリスさんが英訳するともう説明不要で、みんなにここで

3 (夫が聞く胎児の心音聞しじま)

ポブ

中身の濃い幸せな恋句ですね。ポブさんはハイク歴二十五年。「モダンハイク」という雑誌の編集も長くされてい

「第三も秋を」と言おうとしてギクッとしました。月を入れ忘れてます。しかも発句が飛行で、うららですもの。第三に天相はダメ! しかたなく発句を直して月をいれます。  
1 ビーバーも自転車飛行昼の月 藍  
「マイミステイク」といって、クリスさんに理由を言ってもらいます。天相がうち越すことも、素秋にしないために本来五句めの月の座をひきあげること。こんなややこしいようなルールを彼らは真剣にきいてうなずいています。——かくて恥をさらし、三句の転じの重要性を一座に確認した捌なのでした。

\*難しい季感・生活感  
三句目は「また秋。発句が童話的なので離れて生活感を人情(person)をいれて、内にはいる(indoor)」と。季語のない句は返します。もっとも「セーターは冬の季語」と返したら「ミルウォーキーではセーターは秋のイメージ」だと反論されました。ミルウォーキーの冬は零下十数度。

ミシガン湖が凍る音がするくらい。セーターで街を歩くのは秋の季感なんですね。この土地の季語集作りが待たれることです。

3 Shutting windows / the gardener / arranges dry herbs (菜園のハーブ作りは窓しめて) ベティー

この句はクリスさんやほかの人の意見でとっています。ハーブ作りは秋の家庭の仕事なんだそうです。生活感のある句を、なんていった私がこの土地の生活感を知らない

ます。ただし、私は自分の訳に不満です。実は英語の句では、

preparing for bed/the husband listens to/the fetus's heart

つまり夫婦が一日を終えて寝る前の寝室風景なのです。

「聞しじま」より日常的です。

でも「寝る前に」じゃあんまり味気ないし、どなたかどうぞいい訳を教えてください。

4 (じまんのキルト散った布きれ)

レベッカ

5 (月凍り白いパンガローに立つ煙)

ジェフ

6 (廃墟ザグレブ民は埋もれし)

ベテュー

7 (残されし嘆きは地蔵のみぞ知る)

ダニー

キルトのやり句から冬の月。そこで時事か歴史をと誘うと、ザグレブが出たのでした。

ザグレブはスロベニアとクロアチアの争点の街。こんな民族問題は私たちより身近でしょうね。この移民の国の人々の多くはファミリーの祖国をヨーロッパに持っています。作者のベテューさんはダンサーだとか。ハイクをダンスにしたこともあると話してくれました。さっきのボブさんもそうでしたが、聞けばこの席の全員ハイク歴があります。実際私たちのツアーは行く先ぎきで、北米の各ハイク協会にお世話になっていきます。ハイクから連句への素直な関心は、日本の連句人には羨しいことです。

ところで希久さんが私の横で囁きました。

「ね、ズルイと思いませんか？ 彼らは三行詩と二行詩で、

一行の長さは自由でしょ。日本人は575と77に合わせるんですもの」

こういう率直な感想って大事ですよ。

実はサンフランシスコで私たちはアメリカカナダユークテイケイハイク協会の指導者徳富喜代子さんにお会いしました。この協会ではその名のとおり有季定型——つまり英語のシラブルも57577に合わせるのです。

私は英語のリズム感についてうんぬんできませんけれど、定型詩としての俳句連句の海外への出方の重要な問題とします。

\*雨のキッスの花の句

ファスナーに胎児の心音、ザグレブに地蔵と、印象の強い句がすでに出たので、あとはさらさらといくところですね。

8 (ランプゆらしてボールとまりぬ)

ジェフ

9 (目を閉じて新しいゲーム案じつつ)

ボブ

10 (若緑してもとむやさしさ)

ベテュー

やさしい若緑はやさしい花を呼びました。

11 Kiss of rain/blossom time/has come

ダニー

(花やいま雨のキッスにほだけぞめ)

ボブ

12 (丸太の上で亀の永き日)

ボブ

実質的には連句新人ばかりですが、私の好きな感性の句が出て、幸せな座でした。ただ後から近藤蕉肝さんに見てもらったら、訳しちがいがありません。ザグレブの句は、(burned)つまり「焼かれし」なのです。私は(buried)

### 半歌仙 アンにささげるビーバーの巻

#### 藍・クリスマス捌

ビーバーも自転車飛行屋の月

藍

燕はるかに帰りはじめ

ボブ

菜園のハーブ作りは窓しめて

ベテュー

ガレージで子等劇の練習

ダニー

満開のビーチバラソル湖の岸

ジーン

蟬がかき消すチェンソーの音

クリス

噂の彼大学やめて職に就き

ダニー

背なのファスナーもつれもどかし

希久

夫が聞く胎児の心音聞しじま

ボブ

じまんのキルト散った布きれ

レベッカ

月凍り白いパンガローに立つ煙

ジェフ

廃墟ザグレブ民は埋もれし

ベテュー

残されし嘆きは地蔵のみぞ知る

ダニー

ランプゆらしてボールとまりぬ

ジェフ

目を閉じて新しいゲーム案じつつ

ボブ

若緑してもとむやさしさ

ベテュー

花やいま雨のキッスにほだけぞめ

ダニー

丸太の上で亀の永き日

ボブ

一九九二年八月十八日 首尾

於・ウッドランドパターン

と間違えたのです。ナンチュウ英語力！ それで煙とそのあとの炎と、火が多くなってしまいました。それに、ハーブの句もそうですが、単語の意味をわかるだけでなく、生活感に共感がないと捌の選択が狭くなることは何度も感じました。(これは日本で世代の違う連衆とするとときとも似ていますね)

\* しかも句は意味でとるわけで、英語の詩としてのニュアンスや完成度は全くわかりません。だから私はずいぶんクリスさんの意見をききましたし、ここはクリスさんと二人の捌とするべきだと思いました。英語の連句と日本語の連句と仕上がるわけですね。(スペースがないので日本語のほうだけ最後にまとめます)

\* この晩、私たちはアンさんのお家に伺い、おいしいスープと七面鳥をいただきました。

壁や棚には木彫りの大リスや少し不気味な人形や、アンさんの作品がいっぱい。いろんな夢が空中飛行していましたよ。そして私たちの旅もまた、連句という不思議な夢を作りつつ、このあと半月も続いたのです。

東 明雅  
杉内徒司  
大畑健治

### 連句辞典

東京堂出版  
定価 三六〇五円

# 第十二回 俳諧芭蕉忌

第四十三回 猫蓑会

平成四年十月二十一日  
於 深川芭蕉記念館

恒例の芭蕉忌を十月二十一日(水)深川芭蕉記念館で修し、正式俳諧を興行した。その後、二十韻八巻を首尾。参加者四十三名

第一部 正式俳諧興行 「冬籠り」 一卷  
第二部 二十韻八巻

(一) 役割

|     |       |
|-----|-------|
| 宗匠  | 豊田好敏  |
| 脇宗匠 | 副島久美子 |
| 副宗匠 | 中田あかり |
| 執筆  | 内田麻子  |
| 知司  | 上月淳子  |
| 副知司 | 小林千雪  |
| 座配  | 梅田利子  |
| 座見  | 滝川雅代  |
| 花司  | 市野沢弘子 |
| 香元  | 原田千町  |
| 配硯  | 橘文子   |
| 同   | 久保田庸子 |
| 同   | 須田智恵  |
| 老長  | 式田和子  |

(二) 次第

- 一 席改め
- 二 席入り
- 三 配硯
- 四 献花
- 五 執筆呼び出し
- 六 文台捌き
- 七 俳諧興行
- 八 花前
- 九 献香
- 十 花の句披露
- 十一 端作り
- 十二 吟声
- 十三 文台返し
- 十四 作品奉納
- 十五 納硯
- 十六 挨拶
- 十七 退席

## 脇起り二十韻冬籠り

捌・文豊田好敏

冬籠りまた寄り添はんこの柱  
家内こぞりて祝ふ炉開  
海流の運ぶ潮の香松原に  
放した犬を追ひかける子等  
十一面観音の月覗き見て  
らくがき帳に挟む秋桜  
初デート甘く酸っぱく林檎剥く  
アッシーメッシーそれで本望  
大統領訪日つひにとり止めぬ  
土曜休みを過ぎすあれこれ  
鉢巻きも神輿の渡御に急かされて  
冷酒ですよと念を押す爺  
地滑りの跡荒々と村の山  
なれぬ手つきで添へ木つけやる  
見つめゐる眸の中は彼ばかり  
閑しんしんと風疼く月  
清張も鬼籍に入りて未完なる  
つくしてふ字にくねる白鳥  
小綬鶏の鳴けば大樹の花照りて  
若き父親ゆるするふらここ

## 芭蕉忌 正式俳諧の宗匠のお役をお受けして

思い起こせば今年四月、明雅先生から「次は宗匠をおねがいしますよ……」と内示をいただき、改めて六月頃お電話をいただきました。

宗匠という大役、執筆も脇宗匠も副宗匠の方々も皆さまが大先輩。花司も香元も同じく大先輩で、私が宗匠とは……という思いで、心は千々に乱れました。その時脳裏を走ったのは、かの『去来抄』。発句と乞はば秀拙を選ばず早く出すべき事也。恩師のご命令は一にも二にも早くお返事すべきと思い、「ハイ」とお返事。わが心に思う言い訳として、勸進帳ではないけれど経験浅き役者が義経役を命ぜられたと受け止め、ただただ立ち居振舞に粗相のないように専念すること。

お香を捧げ持つてよるめいたり、ひっくり返ったら一大事と、約一カ月の間、毎朝一時間づつ正座をし、おもむろに立って歩いたりして、自信をつけ本番も夢中で乗り切ったわけです。

さて、おかげさまで今回の芭蕉忌正式俳諧は、お役の皆さまが、するすると流れるように、典雅な中にも和やかな雰囲気醸しだされ、心から感謝しております。

その、無事終了した喜びが、その後の二十韻のお席で脱線しかかったことは、かえすがえすも不覚のいたすところと深く反省する次第です。

秋の風

物言はぬ翁の像や秋の風

新酒の杯にゆるる月影

葺山分け入る程に家ありて

BSアンテナ集ふ村人

嫌煙権もち出し女きはれる

三つ児の母になつて十八

カタカナの料理だけしか出来ないの

ゴビの沙漠に馬頭琴鳴る

虹の橋渡りて黄泉へ立ちしとや

百の石仏祠る夏草

宰相も大統領もゆれる座に

飢と戦ふソマリヤの子等

焚火して徹夜の果の切符買ひ

野球と芝居飯よりも好き

おやぢギャルトトカルチョまで手を延ばし

男を変へる季節変りめ

月出でて浜をよこぎる蟹がざみ

白魚売りて身体くたくた

花筵野点の顔の上気して

鶯の音のととのひて行く

脇起り鷹 一つ

鷹一つ見付てうれしいらご崎

冬構へすむ家の遠近

深鍋に貝をあれこれと煮こむらん

うる覚えなる歌を英語で

山の端を染めて居待の月上る

露にしめりし肩を抱かれ

忍び合ふ葡萄酒醸す樽の陰

録音機能もてるラジカセ

国政をよそに跡目を争へり

悠々自適犬のお散歩

やうやくに葵祭の準備成る

葛切りどっせへえおこしやす

旅鞆大麻の包みひそませて

けふの下着は黒で揃へぬ

凍て月にぼろぼろの過去探り合ひ

徒歩で通へる駅までの距離

Uターン青年の意気村おこし

巢立ちの鮒を釣りし思ひ出

花の下絵筆をとれば人の佇つ

笛であつめる野遊びの子等

明雅

惠美子

豊美

麻子

蓉子

道子

豊蓉

同麻

同道

惠豊

豊麻

同道

同蓉

惠蓉

同道

同豊

同麻

同道

同蓉

同惠

捌・文・東・明雅

二十韻「秋の風」の巻、はじめ、一座の顔ぶれがすべて新顔の方ばかりだったので、これはとちよっと不安であったが、ベテランの応援もあり、無事、時間内に首尾することができた。もちろん、新顔と言っても、A・C・Cで半年間修業された実力は無視できないものがあって、たとえば、私の発句に対してすぐ晩秋の月を出されたのは、秋の風というものに対して、第三では天象・気象の打越になる事、また、三秋に対して季を定める処置を考えての付けであるうが、これは猫養会初出場の方の句とは思えないすばらしさである。

第三も、大きく転じて、いかにも丈高い、それで新しみのある四句目が出て、大関ワンカップで乾盃した時は、もう、私はすっかり安心していた。

裏の折立、嫌煙権を持ち出したのは原句では男であったが、連衆一同の添削で女となった。これは次の恋句の誘いというわけであるが、これも妥当だと思う。この時私はお酒によっぱらっていて、皆の意見をウンウンと言って付け進んだもので、新しい方々の御意見も実にまっとうで感心した。こうなれば、捌きは楽なものである。ついに十八歳で三つ児の母となったのも、御本人の意志というよりはむしろ連衆一同の作品といった方がよろしい。かくて、一卷はゴビの沙漠に行ったり、ソマリヤの子や、おやじギャルなど、結構、変化に富んだものが出て、楽しかった。

捌・文・金久保 淑子

鷹一つ見付てうれしいらご崎

翁

脇送り二十韻の捌きのお知らせを受けた時、頭の中にすぐ浮び上ったのが掲出の句であった。他にこの句を発句に用いられた卓もあり、披露の折それぞれの展開に捌と連衆の呼吸のよさを感じとる事が出来た。我々早角子の卓の連衆はみな経験豊かな達者な方々で、式目表片手に四苦八苦している不勉強な捌きを助けて座を盛り上げて下さった事に心より感謝して居ります。

この巻を自解してみると、表四句と裏は淡々と進行し、捌きの保守的な性格が災してか、何かこの気分が続きそうに困ったなと思っていたところ、名残の表に入り恋の句あたりで一転破の段に入る事が出来、名残り裏は一呼吸という所です。突出して面白い句が揃ったという巻ではありませんが落着いた雰囲気のある作品だと思っております。又すこし単調になったのはカタカナの句が非常に少なくそれが場面の転換を妨げたのではないかと思う次第でこれは捌きの力量不足と痛感して居ります。連句は作品の出来はもとより、一卷を巻き終るまでの連衆との座の盛り上りも加味され、一座の心が通じ合い初対面の方とでも旧知のごとく打ちとけられるすばらしい文学であると折々感じ入り、この道の仲間に加はれた事をうれしく思っております。連衆の皆様有難度うございました。

脇起り寒菊

寒菊や粉糠のかかる白の端  
脚立たてかけ塞ぐ北窓  
波頭とがりし橋を渡りきて  
スキップ上手保育園の児  
歌でいふお盆の様な円い月  
虫の音聞きにさそふ暗闇  
この度は紅葉狩らずに男狩り  
松井欲しいと長島がいふ  
神仏猫も杓子もおすがりし  
分譲宅地一歩一変  
缶ビールぐつと飲み干した愚痴る  
妖精の夢を月の短夜  
ほどかれてはらりと乳房隠す髪  
どうして泣くの大的をとこが  
壬申の乱となりたる佐川便  
等級降る勳章の沙汰  
しみじみと来し方徳ぶ田舎蕎麦  
亀鳴く声に合はす竹笛  
高樓の花に漢俳付け合ひぬ  
母の灯せる難の雪洞

翁 志げ子  
篤子  
和子  
隆秀  
よしえ  
篤  
和  
秀  
和  
哲  
和  
篤  
志  
秀  
え  
秀  
え  
哲  
え

秋晴れの一日、時雨忌の数珠玉のお席にてお捌きをさせ  
て頂きました事、厚く御礼申し上げます。  
これで終れば良ろし御座居ましたのに、一筆書けとの  
仰せ、仕方ございません、紙面の裏に隠された、恥しい嘆  
きでもお聞き下さいませ。  
御連衆のお顔ぶれを拝見致しまして、真青。然し落着い  
て考えてみれば、私が居眠りしていても立派な一卷が出来  
上るのは確実。無い袖は振れませぬ、ケセラセラ。  
一寸恰好も付けて、と  
「この辺り場の句で如何でしょう」と云うより早く出揃う  
場の句。間の悪さ。見られて無いと思つた手元にお隣の声。  
「その字、この方が良いのでは」  
「そうですね」成程成程。で真赤。  
「この字は二、三句前にございますが」私、返って来る句  
が前より素晴らしい摩訶不思議。  
成程成程。花の座に漢俳の文字。ハテ？  
「これはね……」成程成程。  
「今度ゆっくりと、教えて下さいね」と私。  
ベテランの家庭教師五人に囲まれた、出来の悪い子供の  
心境、誠に良く解りました。猿にも出来る反省。お恥しい  
事でもございました。御連衆の皆々様、お許し下さいませ。

捌・文 蒲原 志げ子

脇起り鷹 一つ

鷹一つ見付てうれしいらご崎  
薄墨色に冬浅き海  
巧みにもピアノソナタを弾くならん  
ミルクたっぷり母のクッキー  
月さやか並木の影のくつきりと  
無人駅舎は露霜を置き  
新走りさしつさされつ手が触れて  
焼けぼっくひのちよつとくすぶり  
報道陣だまして逃げるニューヨーク  
フライングドクターいつもせはしく  
熱帯魚長き尾鰭をひるがへす  
夏書の筆を休めれば月  
ドン辞めてドタバタ劇のきりもなし  
NHKの漫画「ヤダモン」  
逢ひそめし時からずつと恋焦れ  
彼の体臭夢のまにまに  
吠え立てるハスキー犬に石礫  
若芝の土堤ジョギングで行く  
花吹雪く八幡様の大鳥居  
子の遊ぶ声透る春昼

翁 遊  
智恵  
あかり  
美津  
シズ  
恵  
ズ  
津  
遊  
津  
り  
ズ  
恵  
津  
ズ  
恵  
津  
津  
恵  
津

猫衰時雨忌の捌きを仰せつかり、どうぞ楽しく巻き上げ  
られますよう願ひ乍ら出掛ける。  
私の席は、ひよんの実、連衆は四人。  
鷹一つ見付てうれしいらご崎 翁  
を立句に選び、脇を捌きが付けた。  
薄墨色に冬浅き海  
第三はピアノソナタで、場面ががらりと変わり、第四のク  
ッキーで更にモダンになる。  
表が終り、下戸揃いで形ばかりの乾杯。  
第五は並木の月。これで外へ出た。並木の先に無人駅。  
列車を待ち乍らか、露霜の駅舎で新走りを汲み交すふたり。  
あら、焼けぼっくいだったの?! これに傑作が付いた。  
報道陣だまして逃げるニューヨーク  
聖子? 慶子? さんま? といっとき座が湧いた。  
広い地域では医者も飛行機とか。熱帯魚で夏になり、夏  
書で鮮やかに場面転換。次は時局。永田町の騒ぎには国中  
ヤダモン。それから恋に移った。ヤダモンとそっぽをむか  
れれば、尚一層焦がれる恋の切なさ。成就したものの、今  
は夢になった十六句目。四足をどうぞーとの催促に、早  
速ハスキー犬が出た。  
続いてスポーツとしてのジョギングが。そして花の八幡  
様で神祇が。それから子供の明るい挙句で満尾。願った通  
りの楽しい座であった。

捌・文 雑賀 遊

脇起り年の暮

盗人にあふた夜もあり年の暮  
根深ばかりが残る厨辺  
三毛猫の赤き首輪を結びやりて  
かくれんぼの子築山のかげ  
望の月のぼりきつたる清洲橋  
師弟の仲で新酒酌み合ふ  
そぞろ寒証扱の写真見せらるる  
野原に残る謎のサークル  
道祖神大きな鼻の少し削げ  
古美術商の爺の饒舌  
政治家も孫太郎虫孫に買ひ  
金波踏み替へサーフィンの月  
ナナハンの快調音のルート1  
好き好き好きで義姉がだいき  
父親の名前の云へぬ嬰をもうけ  
何時かのさばるハッカーの怪  
故郷に糸を括りて住みつづく  
常節すこし盛りつける志野  
校倉にかかれる花の枝垂れつつ  
棚田うららに畦を来る人

翁 澄 清 啓 正 庸

子 子 世 江 子 凡 同 清 江 清 庸 世 凡 江 世 庸 清 庸

盗人にあふた夜もあり年の暮 翁  
何を発句とするか、迷った末、まだ知らなかった句の中より選んだ。七部集によると、「出羽園國司呂丸が京にのぼるとて」云々の詞書があり、芭蕉が故人となった呂丸を悼む氣持が深く底に流れてゐる句である事を知った。句はをかしみ、俳味が横溢している。しみじみと深い人間芭蕉の深い心を垣間見る思いがした。脇は泥棒にすっかり持たゆかれた厨の様を付けた。第三は猫衰会には珍しく三句目の猫、清子さん作。四句目啓世さん可愛らしく然も庭のたたずまいが出てゐる。ウラ五句目くつきりと満月、橋が出てこれからの恋の転回を促してゐる。正江さん。六句目、新人の久保田庸子さんは苦吟なさつてゐるかに見えたがすこい句にびっくり。七句目、中川凡さん雑談の中からのヒントで無事一巡、続けて英国で発見された謎のサークルをお付けになりぐつと新しくなつた。後はとんとん進み、名残の恋句二句は句調よく楽しくそしてはつとさせられる。義姉はおおらかそのもの、しがみ付いてゐるのが義弟だとすると、まことをかしい。名残の裏はベテラン各位の御助言の飛び交ふ中で、はじめの鯛を常節にとり変へて志野の鉢に盛り、格調高く校倉にかかる枝垂の花を出された。ともかくにも終点にゴールインしての感想は「連衆の皆様有難うございました。」

捌・文 八角 澄子

脇起り雪ちるや

雪ちるや穗屋の薄の刈残し  
杣のつづらを伝ふ笹鳴  
カタログ誌好みあれこれ語りゐて  
じゃんけんぼんのちよきばかり出る  
美術館高窓細くのぞく月  
コスモス揺るる駅に彼待つ  
うそ寒の背広ふはりと掛けてくれ  
箆にいったい銭洗ふ池  
OA機入れて商談多端なり  
使ふ場もなき拳法の技  
漁労長酒の肴に冲膾  
月影涼しセレベスの海  
ジパングに夢はふくらむコロンブス  
目覚めの珈琲僕と飲まうよ  
高軒我慢の共寝五十年  
猫板の猫あくびしてゐる  
大学生手話通訳のポランティア  
弥生狂言伯母は欠かさず  
花便り閑中忙と書き添へて  
黄蝶憩へるつくばひの上

翁 冬 利 雅 淳 光

乃 子 代 子 子 子 代 子 利 光 利 代 淳 利 光 淳 代 乃

ひとつの言葉が心の中に呼び起す連想や感興の量はどれ程のものになるのでしょうか。例えば「雪」という言葉の場合、全くの個人的経験の他に恐らく古代からの文学による蓄積が相当量ある筈で、私達は無意識の内にそういう文学的伝統に浸された存在なのだと思います。付句を案ずるとは、これらの情報を選択し一行の詩として前句を継ぐ仕事ですが、この時頭の中をかけ巡るインパルスについても私は考えます。付句を案ずるのを「スリリング」と書かれた文を覚えていますが、前句に対してぱつと閃くものを攔むその一瞬をそう表現なさつたのでしょうか。その時に働くインパルスの速さと強さ。さぞかしと思うのです。私もいつかそれを持つ事ができたらと身の程知らずにも夢見でしまいます。さてそんな私も「連衆はベテラン揃いですから大丈夫。」とお契めで捌をさせて戴きました。本当にインパルス充分で流石の御投句ばかり。月の座も恋の句作りも滞りなく、ナオで目論んだ俳味も出せたつもり。とも角時間内にまとめる事ができました。ベテランの連衆をお迎えしての捌の心得は、式目への配慮もさる事ながら、座の雰囲気心地よく盛り上げる過不足なき話題の提供、そうして連衆のお身の内の感興を活潑にし、座の内の詩心の交流をなめらかにする糸口となるべきかと思いました。もとよりこれもまた私には遠い夢でしかないようではあります。

捌・文 百武 冬乃



脇起り鷹 一つ

捌・文 山 口 みづえ

鷹一つ見付てうれしいらご崎  
 干網かるくゆるる小春日  
 御絵描の子等のおしゃべりきりもなし  
 取分けてゐるスナックの菓子  
 いざよひの月昇り来るビルの肩  
 椽の実拾ひ彼の人を待つ  
 爽かに熱愛宣言したばかり  
 自ら降りし派閥会長  
 フィレンツェの聖母の像に立ちすくみ  
 カンツォーネのひびくバリトン  
 お絞りで足の裏拭くひとり者  
 最中つまみつ呷る焼酎  
 やな奴と思ひながらも入れあげる  
 おまへやっぱり小野の小町よ  
 老い猫の凍月浴びて怪僧に  
 無重力中鯉の実験  
 水垢離に打たる度に生気満つ  
 ホールインワン乗りし春風  
 連れ立ちて襲名披露花衣  
 白磁の壺に垂るる藤房

翁 好 弘 千 雪  
 みづえ 敏 子 子 雪  
 弘 敏 子 雪 同 敏 良 雪 弘 忍 雪 弘 忍 雪 良 雪 弘

昨夜の雨の名残が未だしつとりと感ぜられる芭蕉記念館で、第十二回芭蕉忌正式俳諧興行は行われました。回を重ねられ、それぞれの役も堂に入り正式俳諧興行は無事見事に終了、ついで定例の二十韻が張行されました。時雨忌に因み「鷹一つ」の芭蕉の句を選び、脇起りと致しました。素晴らしい発句に対して脇は平凡な風景句とし、表四から、五、六とスムーズに一巡しました。次の七の処で「熱愛宣言」などと若々しい恋の句が出るに及び、唯一人の男性である好敏さんが「六十を過ぎるともう男じゃない」と誰かに言われたなんて、おとぼけの中性宣言をし乍ら次第にエンジンがかかって来ました。そこで派閥会長を降りたと思うと、いきなりフィレンツェへ飛んだり縦横の活躍、付句はばつぱつと出るし、考えあぐんでいる人には、何かと暗示を与えて誘い水をかけると言う有様、それかあらぬか、女性の方も次第にトーンが上って来て、何ともユ一モラスなひとり者の生態から、奇矯な酒吞が登場、深間な恋の山場へと、一気に展開しました。その後は化猫から無重力ホールインワン迄飛び出し、全く中性宣言の魔術にかかり、出来た一巻だったと思えます。

脇起り 初時雨

捌・文 山 崎 一 恵

初時雨初の字を我時雨哉  
 爐の傍らに硯短冊  
 ケーブルカー溪谷を越え昇るらん  
 喚声あげてはしゃぐ子供ら  
 新月の万聖節に猫拾ふ  
 誰か呼んでる裏の薄野  
 あばた顔赤らめてゐる秋の蚊帳  
 一プラス一 三になるとき  
 お家芸根回し談合閣献金  
 上手に渡る塀の外側  
 ミュンヘンの蓋つきマグでビール酌む  
 頭のうへの蜘蛛の巣に月  
 たぶらかし世界を馳せる宗派あり  
 ただ者でない彼の眼差し  
 フォアグラのソティとろりとディープリキス  
 高血圧を怖れ検診  
 あれも夢これも又夢七十年  
 のどかに醬油醸されてゐる  
 内海の汽笛もはるか花の寺  
 風車売りとどる細道

翁 一 千 杉 淑 富  
 恵 町 亭 代 町 代 美 代 美 町 同 美 町 美 亭 代 町 亭 代 亭 美 町 惠 亭

第十二回俳諧芭蕉忌二十韻興行の捌の一人として、私の番がまわってまいりました。芭蕉翁の句の脇起りとのことで、発句をきめなければなりません。不勉強なものでございますから、頭に浮ぶ句とてなく、芭蕉俳句集を開くと、春、秋、月ばかり目につき、冬の句をあらためて読めば、さて、何を選べばよいか。時雨忌なので、時雨の季語がはいっている句はどうかしら。それとも、深川でお作りになったのがよいかしら。などと思ひながら、「初時雨」の注を読みますと、「其翁或かたへ伴ひし比 初てなれば 初時雨初の字を我時雨哉」と挨拶せられしも……とありましたので、これを戴きまして御挨拶句と取り、脇は室内の句にいたしました。当日は連日の雨もあがり、秋晴のよいお日和でございました。「正式俳諧興行」も執筆をなさいました、内田麻子様始め皆様には堂々と、流れるようにお進めになり感服して拝見いたしました。さあこれから、猫養会の二十韻興行がはじまる前のざわざわとしております時に、突然捌は、清記に小文をつけて出すように、とのお達しがございました。手紙を書くのも不得手なものでございますので、胸が重くなり、捌をいたします気力もなくなりましたが、一座に大先輩の杉亭様、大ベテランの千町様がいらっしやいますので、両側からお助けくださり、俳人の富美様、新進気鋭の淑代様方のお力により、無事に一巻を巻上げる事が出来ました。

# 「灰汁桶の」の巻鑑賞 (I)

東 明 雅

「猿蓑集」巻五には、「鶯の羽も」の巻、「市中は」の巻、「灰汁桶の」の巻、それに「梅若菜」の巻の歌仙四巻が掲載されている。この中、芭蕉の句が三句しか入っていない。「梅若菜」の巻は一応別格として、残った三巻はそれぞれすばらしい出来栄で、芭蕉俳諧の神髓を示すものとされて来た。私は「季刊連句」15号から21号に「市中は」の巻を、22号から32号までに「鶯の羽も」の巻を評釈・鑑賞して来た。それで今度は残った「灰汁桶の」の巻について評釈・鑑賞を試みようと思う。

「市中は」の巻は芭蕉・凡兆・去来の三吟、「鶯の羽も」の巻はこの三人に史邦が加わって四吟であるのに対して、「灰汁桶の」の巻では史邦の代わりに名古屋の岡田野水が加わっての四吟である。あの「冬の日」ですばらしい才能を発揮した野水が、八年後の元禄三年に、どのような姿で登場し、どのような影響をこの作品に与えるか、これも、この作品の見所の一つであろう。

まず、この作品の表六句を掲げてみよう。

灰汁桶の雫やみけりきりくす

あぶらかすりて宵寝する秋

新畳敷ならしたる月かけに

凡兆  
芭蕉  
野水

が滴り落ちてアクがたまります。これをお椀ですくいあげ、お湯をませ洗濯に使います。相当ぬめりのある液で、生地を痛めずよく垢が落ちました。灰はいろりの灰を使いました。わらを焼いた灰が一番です。

次に、きりくすは漢字で書けば蠹蝨で、緑色に褐色の斑のあるやや大型の虫、ギーツと鳴いて、間をおいてチョンと合の手を入れる。しかし、この蠹蝨は夏の虫で、秋深くなると居なくなってしまう。

これに対して、平安時代からきりぎりすと呼ばれ、歌にも詠まれたのは、現在でいう蟋蟀のことであり、蟋蟀をきりぎりすというならわしは江戸時代の末期まで残っている。古い俳句を見ても

むさんやな甲の下のきりくす

白髪ぬく枕の下やきりくす

猪の床にも入るやきりくす

などは、すべて実は蟋蟀を詠んだ句であろう。

蟋蟀は秋の初めに生まれて、寒を得れば鳴くと言われている(和漢三才図会)通り、夜長・夜寒が蟋蟀の本意であるろう。

「付合考」が「灰汁桶は背戸うら口の軒下塵塚などの傍に有事なべてのさま也。秋のすへ、洗ひ物の用意にとて、古き桶取出して灰たる、いかき、藁灰の雫の落たる音やみたるに、つゝれさせと啼虫の音に、針葉のいとまなきさままで思ひやられて哀なり」と

と言っているのは、この句の真情を理解したというべきで

ならべて嬉し十のさかづき  
千代経べき物を様ぐ子日して  
鶯の音にだびら雪降る  
去来  
芭蕉  
凡兆

灰汁桶の雫やみけりきりくす  
(現代語訳) 灰汁桶の雫がぼとりぼとりと小さな音を立てて落ちていたが、それもいつの間にか止んで夜が更け、こおろぎの音がひびいている。

(補説) 灰汁桶については、故佐藤廣幸氏が「季刊連句」三十号に、詳細な研究を発表しておられる(同号「灰汁桶の雫」)ので、それを参照していただきたいが、同氏はこの論文の中で、小宮豊隆氏以下、小島吉雄氏などの所説にもふれ、最後に、実際に灰汁桶を使用した婦人の言を取りあげ、次のように紹介しておられる。

灰汁で洗うと染めが落ちず、よく洗濯ができたものです。灰汁桶は一斗桶ほどの家におありあわせのものを使いました。その桶を台所の片隅におき、箆をその上に乗せその箆にこれもありあわせの使い古しの木綿切れを敷き、その上からお椀に水を汲み日に何度か注いでおくと、箆から下の桶の中にポトリポトリと灰の中を通ってきた雫

あろう。つゝれさせとは蟋蟀の一種に「つゝれさせこおろぎ」というのがあって、夜寒のころ、人家に入って、リー・リーと鳴くのを、「肩させ、裾させ」と鳴くというが、つゝれは破れた衣、その肩や裾の破れを縫い繕うと鳴くというのであり、いかにも、灰汁桶のある土間あたりにふさわしい虫である。

灰汁桶の雫やみけりきりくす

あぶらかすりて宵寝する秋

(現代語訳) 滴りおちていた灰汁桶の雫の音もいつか止み、蟋蟀の音が聞こえる夜長のころ、油が勿体ないので、灯も点さず宵の中から寝ることである。

(付心・付味) 付句は人情自の句、前句は人情なし(立場)の句であるから、いわゆる起情の句である。付味としては、「灰汁桶」と「あぶらかすりて」が、何れもともに庶民、それもあまり豊かでない階層の生活の実体に即した「位」の付けである。また、前句のわび・さび、静寂・寂寥の感、付句にも移っている。

(補説) かすりて——「かする」という他動詞四段活用(補説)の動詞は、①通りすぎるとき軽くふれる。②軽くその事にふれる。③上前をはねる。儉約する。④中に入れたものがすくなくなつて、取り出す時、容器の底に軽くふれる、などの意味がある。

この句の場合、④の意味に取って、油壺にある油をかすつても油が足りないので、そのまま宵寝をしよう意と

